

日本の有機農業の 現状と課題を議論

名古屋で開催

「食・環境・農業トークセッション」(中日新聞社後援)が25日、名古屋市東区のウィルあいちで開催された。

食べ物の約4割を海外に依存する日本の食の実情や、世界で急速な広がりをみせる有機農業の現状などについて議論された。

告示日の6月4日からは町企画政策部長が職務代理者となる。

また、27日に町役場であった立候補届け出書類の事前審査には、近藤さんと、既に立候補を表明した町議長の石橋直季さん(38)の2陣営が出席した。

について考えてもらおうと、農業関係者らでつくる実行委員会(今井隆委員長)が主催した。

日本総合研究所主席研究員の藤谷浩介さんが「有機農産物を取り巻く現状と課題」と題して基調講演。

「日本の有機農業の面積



食と農の現状と未来を考えたトークセッション「名古屋市東区のウィルあいちで

は世界89位。消費者の理解が進んでいない」と話した。

シンポジウムでは、食の生産・流通に携わる人や環境活動家、消費者の代表ら10人が登壇。岐阜県関市で養蜂を営む山田貴文さんは「有機農業がいつか、悪いとかいう前に、農業の影響で、ミツバチなどの生き物が次々にいなくなる実態を、まず知ってもらいたい」と訴えた。

ニュースファイル

■安城駅で改札のシャッター閉まる 27日午後3時50分ごろ、安城市御幸本町のJR安城駅で、自由通路と改札口の間にある電動シャッターが閉まり、改札口が利用できなくなった。JR東海によると同駅の改札